特集 輪・和・話 知恵の 人の マチの

水道事業と当別ダムの経緯

当別町は町民に、安定した水道水を供給するため、国、道との協議を重ね当別ダム建設に向け、各種説明会や会議を 758 回、昼夜にわたり開催してきました。4 月 1 日に当別浄水場から水道水が供給されるまでの経過を年代順にまとめてみました。

昭和 54 年 当別ダム建設予定地視察
(開発庁事務次官)

昭和２７年　当別町簡易水道創設事業（水源：地下水）
　　３８年　当別町第１次上水道拡張事業　安定水利権確保
　　（水源：当別川 1,584 ㎥／日、計画給水人口 8,000 人、４月の人口 19,697 人 ）
４５年　北海道が当別ダムの予備調査開始
　　当別町第２次上水道拡張事業を計画　安定水利権での増量は不可能と判断
４８年　当別町が暫定豊水水利権での許可申請
　　当別町第２次上水道拡張事業実施
　　（水源：当別川 7,920 ㎥／日、計画給水人口 20,000 人、４月の人口 17,854 人）
５４年　北海道が石狩川水系当別川総合開発事業（当別ダム建設計画）を公表
５５年　北海道が実施計画調査開始
　　北海道、札幌市、小樽市、石狩町（現在石狩市）及び当別町で構成する
　　石狩西部広域水道促進協議会発足
平成　３年　北海道が石狩西部地域広域的水道整備計画策定
４年　石狩西部広域水道企業団設立
　　当別ダム建設事業着手
　　北海道と当別町とが当別ダム建設事業に関する協定締結
　　(水没による補償戸数 58 戸、補償面積 639ha)
８年　北海道と当別町とが当別ダム水源地域対策に関する協定締結
１６年　当別ダム建設事業全体計画変更
１８年　当別ダム建設事業第２回全体計画変更
２０年　当別ダム本体工事着工
２１年　当別ダム定礎式
２３年　当別ダム本体の建設工事完了
２４年　当別ダム試験湛水
　　当別ダム完成（10 月 7 日）
２５年　石狩西部広域水道企業団当別浄水場から水道用水供給開始
　　（4 月 1 日：小樽市、石狩市、当別町）

水にまつわる苦労と喜び

『水』は開拓以来、重要なキーワードとして記録に残されており、
それは、当別ダムの完成まで私たちの苦労と不安そして希望でした。
現在に至るまで、当時の水道事情を知る住民の方、実際に水道水を使用されている方、
そして、『水』と関係の深い方からお話を伺いました。

汗水流して『水』を届ける

昭和34年から簡易水道事業に携わりました。簡易水道の水源は、井戸（地下水）なので、大雨が降ると泥水などが流入しないように大きな蓋をしたり、ポンプは水に浸かると壊れるのでリヤカーに積込み、土地の高い所に運びました。結局、水が引くまで2,3日かかり、復旧まで断水せざる得ない状況も過去にありましたね。冬も水道がよく凍結したり、管が破裂したり…修理は毎日行っていました。各地域に水道拡張を行うとき、当時は施工業者が無かったので職員自らが、つるはしを持って工事を行っていましたね。朝から夕方まで現場での作業が数年続いていましたが、農家の方も当時は手伝ってくれたんです。

印象に残っているのは、水道管工事の時に数メートルもある流木が出てきたことです。開拓当時から河川の氾濫は起きていた証拠だと思いましたね。1年365日、不測の事態に備え、夜間・休日交代で勤務していました。非常に忙しい現場でしたが、町民の皆さんに喜ばれ、感謝された時の嬉しさは、自分にとって良き思い出でもあり誇りでもあります。

昭和28年簡易水道時代の様子
町内に数箇所設置された供用水栓（写真中央）を共同で使用していました。

栄木俊男さん（末広）
（元役場職員）

町民の命と財産を守る『水』

瀬戸 脩さん（元町）
（元当別消防署長）

昭和34年　家屋火災の記録写真

昭和38年に当別町消防本部・当別消防署に奉職し退職するまで数々の火災現場で消火活動を行ってきました。

その当時、簡易水道が整備されていましたが消火栓や防火水槽の設置が進んでいなかったため、川から水を汲み上げ消火活動にあたっていました。特に渇水期や河川が凍る冬にかけては水源確保にホースを20本以上延長し、隊員も大変苦労しましたね…。過去に消火用の水源不足で延焼させた事もあり大変悔しい思いをしました。

また、記録によると水利不足で大惨事となった「当別大火」は昭和26年に市街地が火の海となり、当時の新聞にも残っていますが、29戸が焼失した火事で、やはり消火するための水を確保するのに苦戦したそうです。

消防隊員にとって水とは、町民の命と財産を守るために最も必要であり、当別浄水場から供給されている水道水は町民の生活水である一方、消火活動で使用する大事な水でもあるのです。

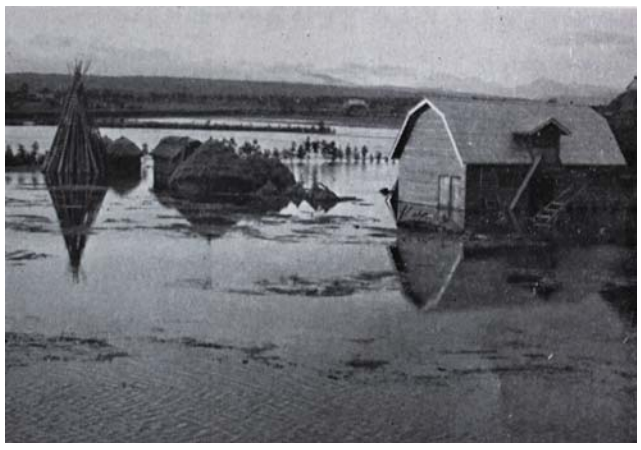
特集 輪・和・話 知恵の 人の マチの

水にまつわる苦労と喜び

河川の氾濫と農業被害

昔は、ほとんどの家庭が井戸水を使用していましたが、味や匂いも異なり、子どもにミルクを飲ませようとしても嫌がって飲んでくれませんでした…。結婚した当時は家庭に慣れる前に、その家の井戸水に慣れるまで大変だった…今では笑話になりますけどね。治水に関しては雪解け時期や雨期にトヨベリ川が氾濫、その都度、水害が起きて田畑は全て水没、刈り取った麦が流され、その光景に茫然と立ち尽くして…。秋の収穫時は、もちろん収量が無く農協から天災資金を借りて生活しました。農家にとって水害とは何よりも恐ろしいものなのです。当別ダムが完成して治水が万全となり、水害の不安から解放されたことは本当に喜ばしいことだと思います。

阿部正幸さん
則子さん
（当別太）



昭和 36 年 当別太トヨベリ川の水害

昭和 36 年 当別市街地の浸水の様子

子どもの離乳食作りにも

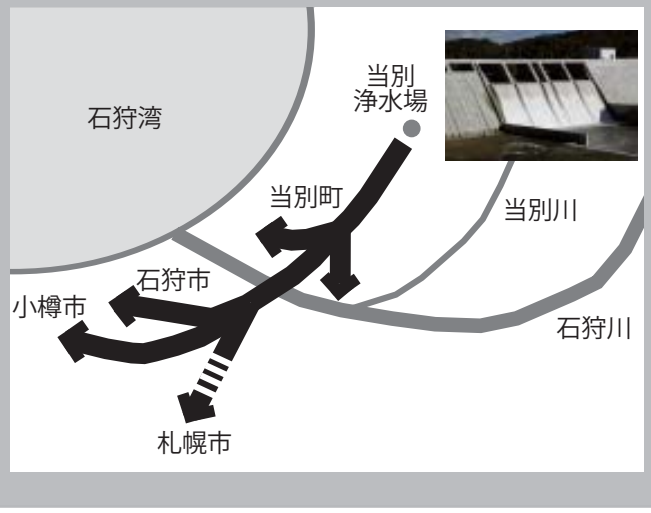
横山美保さん（若葉）
碧（あおい）ちゃん

昨年、札幌市から当別町に引っ越して来ました。以前に住んでいた所の水と比べてみると美味しいお水だと思います。普段の調理や子どもの離乳食を作る時も水道水を使用しています。水質とか詳しい内容は分かりませんが、子育てを行う親として生活に関する「安全・安心」って少なからず気になる部分ですよ。新しい浄水場ができ、いつまでも将来の子ども達のためにも美味しい水を届けて欲しいと思います。これからの当別町に期待しています。

自慢できる水道水です

佐藤信廣さん（獅子内）
しげる さん

新しい水道水を飲んで、サラッとした印象を受けましたし、お風呂に入った時も「やさしい水だな」と思いましたね。井戸水で生活していた当時、濁りや金気が多く洗濯が大変でした。水道ができた時は嬉しかったです。10 年以上前から、体験農業を行い蕎麦打ちや豆腐作りを体験して頂いています。大豆やにがりにも拘っていますが、やはり水が重要なんです。新しい水道水で作った豆腐は風味がひき立った味に仕上がりました。安定しておいしいお水が使える、飲むことができる幸せは、町の誇りではないでしょうか。

当別町で生まれた「水道水」は小樽市、石狩市、そして将来的に札幌市へ供給されます。「当別ふくろう湖」は大きな財産であり、私達にはいつまでも大切にしなければならない大きな責務があるのです。

水道水の供給経路図